

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	水谷 真也
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	助教
在籍年	4 年

教育の責任

臨床獣医学分野の中の外科学、獣医療面接実習、参加型臨床実習、小動物内科学、小動物外科学などに携わっている。これらの内容は、学生が獣医師となった先で、オーナーや動物と接する上で必須の知識、技術となり、教育における責任はとても大きい。

外科学は疾患が多岐にわたり 1 つの学問だけでは解決できないことも多い、また獣医療面接では人との接し方を学ぶことで、円滑な診療を行うことを目標としている。それらの実践をみせる場として、参加型臨床実習があり、実際の症例を見せ、問診やインフォームをみせながら臨床現場での実習をしてもらっています。

教育の理念

教育の理念：わからないことを放置せず、調べる、学ぶ、質問する、理解することができる学生になってもらうこと。臨床現場でも疾患のことでわからないことは無数にありますが、そのわからないことを少しずつ分解していけば何をどこからわかっていて、どこからがわからないかが見えてくることがあります。それを見つけれれば、わからないことを少しずつ理解できるようになっていくので、そこにつながる体系的な獣医学教育を行ない、臨床獣医学の面白さを伝えていく。

教育の方法・方針

教育の方針：獣医師として必要な基本的な診療技術と臨床的知識を身につけること。臨床的知識に付随する基礎獣医学、公共獣医学の知識に立ち戻れる（調べられる）学生となってもらうこと

教育の方法：座学では、外科学に関する内容をパワーポイントで模式図の作成や、アニメーションを用いた模式図の動的な解説を行なっている。また実際の手術動画を見せ、腹腔内などの臓器に位置関係や実際の手技の解説を行なっている。

実習では、実症例や自分の経験などを交えて、実際の疾患の症例の状態から何を考える必要があるか、解剖学や生理学などの基礎的な知識と疾患がどのようにつながっていくかを具体的に理解するための説明や学生への質問を行っている。

質問に答えられない場合でも、それはそれで構わないとし、質問内容のどこまでがわかっていることなのかを分解して聞き出し、わかっていないことを導き出すようにしている。

講義の中では、双方向性授業を取り入れています。CommentScreen というアプリを用いて、講

義のパワーポイント上に学生からの質問やリアクションが即座に表示されるようにし、対面では質問しづらい学生の不安などが払拭できるように努力しています。

教育法の理由：自分が学部学生時代に私が今行っているような勉強法を行うことで理解が深まった経験があり、その実践と還元を目的に行っています。具体的には、学生は断片的に多種多様な知識を持っていますが、それらが体系的になっていない場合が多いです。それら 1 つ 1 つの知識をつなげるためには臨床獣医学の勉強は非常に有効と考えています。

学んだことのなかで、わからないこと、曖昧なこと、理解していないことがあるのは決して悪いことではなく、それを放置してしまうことが良くないと私は考えています。そのため、何がわからないかを明確にし、また調べて勉強してこようという気持ちにさせるようにしています。

教育の成果

学生自らがわかっていない項目などに気づいていけるように促していった結果、最初は何がわからないかがわからないという雰囲気だった学生が、自ら調べ学び、それでもまだココがよくわからないと質問できるようになっていったことが多数あります。恐らく、これまでの各学生の経験上、教員に何か質問されて答えられないのはダメ、ということがあったのかもしれないですが、そうではなくわからないからこそ勉強するということを学び取っていつてくれていると感じています。

この成果は、獣医師として卒業したのちの臨床現場でわからないことにたくさん出会うと思いますが、わからないからこそ調べて学び、動物を助けられるように努力できるようになれると考えています。

今後の目標

学生時代に卒業論文作成だけではなく、学術論文の執筆や学術学会での発表ができるような学生教育をしていきたいと考えています。発表するということは自分の考えをまとめ、再構築する過程であり、これは自ら学んだこと（インプット）をわかりやすく表現（アウトプット）する大変有意義なことです。自分の学んだことを他人に説明することは自分の知識の整理整頓になり、更に自分の理解が進む重要な行為だと考えています。

根拠資料

授業用パワーポイント

学生からの感想

CommentScreen のリアクション